

第4次総合振興計画の中で高齢者の交通手段を確保するため、地域と拠点を結ぶ交通体系の整備が記載されている。

今年2月からは道路運送法の改正により、乗り合いバスやタクシーの新規参入、廃止は、許可制から届出制に移行し、現在運行中の路線バスもいつ廃止になるか、交通弱者にとっては不安があります。

高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進するた



交通確保  
中尾正男議員

町民バス運行を  
課題は承知している



和答院町で運行されている町民バス

と議論を深めて、さらに検討を重ねて参りたいと思います。

めにも、広域的観点から町民バスの運行を検討すべきと思うが考えを伺いたい。

町長  
交通手段をもたない高齢者の方々への問題意識を持ち、平成12年度末頃から日常交通確保に関する検討委員会を設置し、バス会社と交通手段の実施状況、現行補助制度等の調査研究

宮之城町との地理的な関係などから、町内だけを町単独で循環できるかという問題と財政負担の問題などの効果を考えるとともに、道路運送法の改正、また、合併の動向の中でタイミング的にも検討が進んでいないのが実情であります。高齢者にとっては切実な課題であることは承知しているの

環境問題

川口憲男議員

条例制定を

管内5ヶ町で検討中



わが町は、純農村地域で美しい風景が財産である。生活排水等は、合併浄化槽の設置や道路清掃、河川清掃など、町民一体となった取り組みがみられる。川に対する思いも強くドラゴンボート大会や水辺の楽校の整備、ホテル舟の計画もある。

そこで美しい河川を後世に残す上からも、また空き缶やチリなど落ちていない心豊かで美しい町づくりに対し次の2点を伺いたい。

一、河川清掃、水質の改善向上等、河川愛護に対する新たな施策

二、「空き缶等、ポイ捨て禁止条例」の制定



紫尾区総ぐるみによる河川清掃

町長  
川内川流域の自治体、住民の河川浄化、愛護思想普及を全地域で取り組む必要がある。町では補助金制度で普及に努め、紫尾区総ぐるみ、前川、中間川清掃活動等定着しています。

川内川アフフロント推進協議会をえびの市から川内市で結成。水質の問題等大きなテーマであり、上下流域連携し新たな運動を盛り上げていきたい。

条例制定は近隣の自治体と一緒に制定ができれば効果が上がると考え管内5ヶ町で検討段階です。14年度で結論を出したい。出なければ本町なりの判断をしたいと思っています。



紫尾温泉

橋之口淳一議員

事業への一部助成は  
対策協議会と協議



改築計画がある紫尾温泉施設

紫尾温泉周辺整備の中で、今回実現が急がれるものとして温泉施設の改築、休憩施設、駐車場の整備があがっているが、駐車場については具体的に計画がなされていない。

そこで、14年度着工される広域農道のトンネル工事に伴う捨て土を利用し、埋め立て予定地として確保することが必要と思う。

また、温泉改築は当初補助事業に該当することであったが、最終的には利益を伴うので対象外となり紫尾区独自の事業となった。事業費の一部を助成する考えはないか伺いたい。

町長  
トンネル工事に伴う捨て土の利用については、関係の地権者と区及び町が協力し埋め立てができるように検討する。

温泉棟については、紫尾区宮で区の資産であるために、多額の公費を充当して建設した資産から生ずる利益が、町民全体に還元されないという点で補助の対象とならなかった。

一部助成については紫尾温泉周辺の対策協議会と規模の問題、運営問題等もう少し議論を詰めながら今後検討する。



肉用牛生産、肥育経営の安定が望まれる



B S E  
下大迫幸太郎議員

今後の対策・支援は

状況を見ながら対応

昨年から牛海綿状脳症(BSE)の発生により、町内畜産農家においては所得が減少し大打撃を受けている。今後肉用牛生産、肥育経営の安定を図るため、救済措置等を求める声がある。そこで新年度予算に対策費が計上されているが、現下の情勢からして今後の対応を伺いたい。

町長  
牛海綿状脳症(BSE)は畜産農家に経済的打撃と精神的なショックを与えており、町の責任者として大変遺憾に思うと供にやり場のない怒りを感じています。この問題は既に豚や鶏、野菜等まで影響が出ており、牛の生産農家や肥育農家だけでなく精肉店、焼肉店まで拡大しています。

このようなかで、昨年12月臨時議会で410万円の緊急対策を行ったところではありますが、今後においては、この状態がどこまで続くか予想がつかないこともあり、もはや一町での努力をはるかに超えた問題に拡大しています。社会のすう勢、状況を判断しながら必要な場合は適切な対応を取りたいと思います。